

「次世代に選択肢を残すことが 私たち大人の役目です」

富岡復興ソーラー発電所(福島県富岡町)

29.4MW



2018年10月にパルシステムでんきの発電産地となった「富岡復興ソーラー」を立ち上げた中心人物が、遠藤陽子さん、道仁(みちひと)さん夫妻。二人は原発事故で荒廃してしまった町内の田畑の地権者たちを説得し、東日本最大級ともいわれる約35万㎡の太陽光発電所を実現させました。総額90億円の建設費は、銀行のほか、多くの住民からの融資が活用されました。「首都圏の心ある方々へ電気を届けることで、町民の生活を立て直したい」と道仁さん。富岡町出身の二人は、実は元中学教師。「この発電事業が成功した後、この土地を農地に戻すかどうかは将来の世代が決めること。多くの選択肢を残すのが私たちの役目なんです」(陽子さん)。